

海辺の自然学校“海老干潟いきもの調査隊”

— 中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所

平成24年11月10日(土)に尾道市浦崎町の海老干潟で 海辺の自然学校“海老干潟いきもの調査隊”を実施しました

当日は、少し肌寒かったですが、総勢46名の親子さんに参加頂き、楽しい自然学校となりました



<座学>

① 私たちの暮らしと自然との関わり

瀬戸内の気候、川や海の特徴、水の循環を通して山川海の繋がりと私たちの暮らしとの関わりについて勉強したあと、尾道市内中心部にある“正念寺の延命水”と“家庭排水”と“海老干潟の海水”の3種類の水がどれかを当てる“クイズどこの水？”にチャレンジしてもらいました。

② 海老干潟とそこに住む生き物たち

干潟が陸と海の境界で、生き物にとって大事な場所になっていることや潮の満ち引きなどについて勉強しました。海老干潟の生き物やアサリの食害動物も知ることができました。

また、講義と並行して、海老干潟のアサリが海水をきれいにしていく様子について観察しました。

<フィールドワーク>

① 海老干潟の生き物観察

海老干潟で地面の高さや住んでいる場所でのどのように生き物が住み分けているかを観察しました(写真②)。いくつピンゴが完成したかな？

② 海老の海のプランクトン観察

協力してバケツで海水を汲み、フィルターでこして、プランクトンをとりました。さっそく、とれたプランクトンを一人ずつ顕微鏡で観察しました(写真③)。

<ふいかえり・“なにかができることひとつ”宣言！>

先生方にわからなかったことを質問してもらった後、子供たちの自然や海に対する思いを、“なにかができることひとつ”宣言！としてまとめてもらいました。3人の代表が宣言を発表して、閉校となりました。



写真① “クイズどこの水？”

の答えを発表してもらいました



写真② 干潟の生き物観察



写真③ プランクトン観察

海老干潟で観察されたいきものたち

アサリ	マテガイ	ホトギスガイ	カキのなかま	タマキビのなかま	ウミニナのなかま
					
インダタミ	イボニシ	アカニシ	スガイ	オサガニ	スナガニ
					
イシガニ	ガザミ	クルマエビ	テッポウエビ	アナジャコ	ヤドカリのなかま
					
ヒザラガイ	フジツボのなかま	ゴカイのなかま	ハゼのなかま	海藻のなかま(ミル)	海藻のなかま(アオサ)
					

顕微鏡で観察されたいきものたち



子供たちが描いてくれたフランクtonのスケッチ

